

國立成功大學

113學年度碩士班招生考試試題

編 號：28

系 所：台灣文學系

科 目：外文文學文獻解讀（日文）

日 期：0201

節 次：第 4 節

備 註：1.不可使用計算機
2.此考科可攜帶紙本字典入試場

※ 考生請注意：本試題不可使用計算機。請於答案卷(卡)作答，於本試題紙上作答者，不予計分。

1. 下記の引用文をわかりやすいマンダリンに訳してください (25%)

基隆に上陸した、その一日より、私は、早くも、市場の見物の一人となり、臺北に於ても、臺中に於ても、その他、市場の在る所、餘裕のある所ごとに、私は、見物いたしました、何を注意するといふのでは無い。たゞ、素通りしたのであります。

品物は、實に多い、よく取り揃えてある、これは、雜貨市場であり、小賣市場であります、所謂卸賣市場ではありません。東京で申す、公設市場の類で、そのもつと發達した、もつと、大仕掛のものであります。

(中略)

この市場には、内地の人も、買ひに来てゐますが、矢張り、臺灣人が多い、内地人は、あたりの習慣に化せられて、習ふよりは慣れろ、自然に、こゝに引つ張り込まれる、氣持になつたのだらうと思ひます、臺灣人の出入は、頗る盛んであります、

(中略)

東京の市場は、大阪の市場の如く發達しません、東京人は、大阪人の如く、こまかく、始末つぽく、ないからであります、然しながら大阪の市場も、到底臺灣の市場の如く發達しません、大阪人は、臺灣人の如く、始末つぽく、ないからであります、民風は、總ての事の本、市場の盛衰も、亦民風に依つて支配せらるゝのであります。

—田川大吉郎「市場の國」、
『臺灣訪問の記』、白楊社、1925年、145~148頁より—

2. 下記の引用文をわかりやすいマンダリンに訳してください (25%)

福澤諭吉が『学問のすゝめ』において、貴賤上下の區別なく学問すべきこと、それは古典や漢詩をつくることを意味せず、算盤や天秤の使い方といった「実学」であること、実学を学ぶことで各人が国家に所属する日本人として応分の役割を担うことを求めたことを想起すればよい。学問は国民になるための必修科目なのであり、極東の島国は、総力を挙げて国際秩序に対応し、「国家」になる必要があつた。西洋文明の模倣は、官民挙げて取り組むべき時代への処方箋なのであつて、有無を言わさぬものだつた。それはまるで、みずからの生活リズムについて、ある日突然、遅すぎると告げられるようなものだつた。西洋の生活習慣こそ普遍的な「正しい」リズムなのであつて、従わないことは「悪」なのである。

(中略)

多くの日本人が、自身で過去を否定し西洋文明に飛びついた。一方で頑なに新文明の到来を拒絶し過去に閉じこもる者もいた。両極に見える彼らは、実は同じ行動原理で動いている。彼らは目の前の不安を直視せず、自分の正義観に閉じこもり眼を塞いでいるのだ。西洋文明との軋轢と葛藤から眼をそむけ、言葉を紡ぐことを放棄しているのと同じである。萩原朔太郎のように、日本人の喪失したものを意識できなかったのである。

—先崎彰容「日本人のリズムに即した、国力の増強方法がある」、
『文藝春秋』2023年2月号より—

3. 翻譯下列文獻。(25%)

一九二八年頃に、バフチンは〈言葉〉をさらに広げ、〈言葉〉も含めた〈記号〉一般をとらえる学の必要を前面におしだしてくる。……「マルクス主義の文献のなかに、イデオロギー現象という特殊な現象にたいするまとまった公認の定義がいまだ存在しない」というバフチンは、このイデオロギーの世界を記号の世界としてとらえようとする。

あらゆるイデオロギー的所産は、自然の物体、生産用具あるいは消費財のように——自然および社会の——現実の一部分であるだけではない。それだけではなく、列挙したような現象とは異なり、他の、その外部に存在する現実を反映し、かつ屈折させるのである。つまり、それは、その外部にある何かを表示し、描き、それに取って代わる、いうなれば記号なのである。記号のないところには、イデオロギーもない。

(桑野隆 2011『バフチン カーニヴァル・対話・笑い』pp.74 平凡社)

4. 下の文を読んで、問いに答えよう。

1. 文化の「陰謀」

……「日本の母」をつくりあげているのは、ほかならぬそのような神話的な言説であり、そのなかで文学は大きな役割を演じてきた。「日本の母」はどこにいるのだろうか？文化的な言説はそれを超歴史的で運命的なものと断言する。だが、文化的なカテゴリーがつくりあげるのは、規範的な文化理想であり、現実ではない。女性学とフェミニズム文学批判とは、文化カテゴリー現実のひとりひとりの女性のあいだの乖離を問題にしてきた。もし「日本の母」が日本社会の「文化遺伝子」であり、家族関係の中で身体化されるものならば、日本に生まれ育った女はこの運命から逃げられないことになる。フロイトは女性に「解剖学的宿命」を宣告したためにフェミニズムから強い反発を受けてきたが、ベニスや子宮の有無という解剖学に代わって、今度は文化が「宿命」となる。

「日本の母」はどこにいるのだろうか。この問いに対しては、言説のなかに、と答えるのがただし。 「日本の母」の文化カテゴリーは、個々の女性の母としての経験を文化的な鑄型に溶かしこむはたらきをする。それは小文字の母ではなく、大文字の母である。すなわち個人的な体験を迎えた文化的な規範である。そのもとでは、個々の女性の母としての体験の多様性や子ども嫌いの実感を抑圧される。

(上野千鶴子 2003『文学を社会学にする』pp117,118.朝日文庫)

問題 1：文章中「日本の母」指的是甚麼？(10%)

問題 2：您認為作者想要表達的是甚麼呢？(15%)